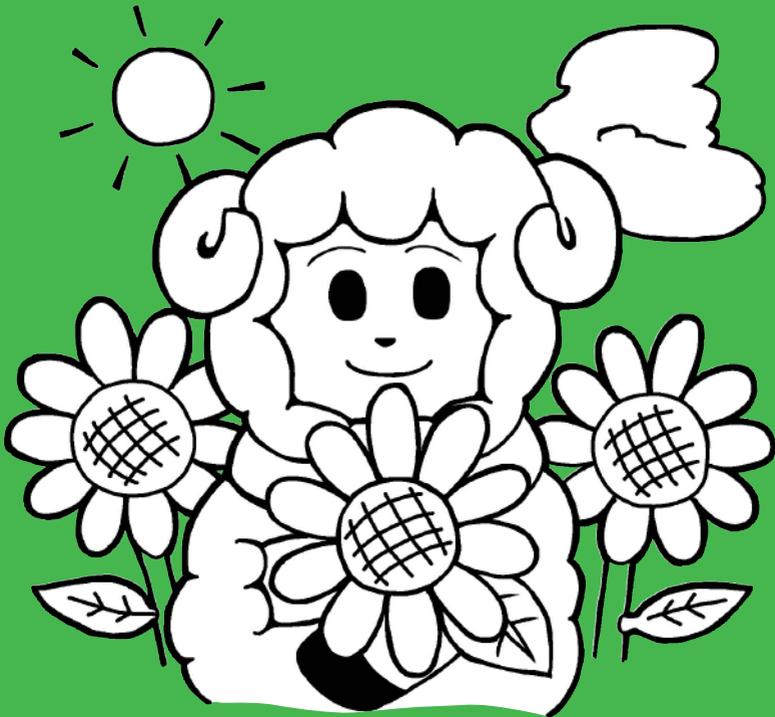


2014年度

西南学院大学 ボランティアガイドブック

Seinan Gakuin University Volunteer Guidebook



西南学院大学
ボランティアセンター

目 次

はじめに

センター長挨拶	1
ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？	2
ボランティアって、なんだろう？	3
ボランティア入門	4
ボランティア活動について（相談～活動までの流れ）	6
学生ボランティア登録について	7
ボランティア活動の心構え	

ボランティア活動

①ちよこボラ（ちよこっとボランティア）	8
②東日本大震災ボランティア	11
③学生サポーター	14
④国内ボランティア	
①久山療育園	15
②ボランティア講座〈ノートテイク講座〉ほか	
⑤海外ボランティア	16
⑥学内ボランティア	17
①西南子どもプラザ	
②聖書植物園	
③防犯ボランティア隊 Green Angel	
④その他	
⑦他機関連携	18
⑧学外ボランティア	20
⑨学生ボランティア団体助成	20

学生グループ活動（サークル紹介）

(1) Mits	21
(2) Think & Act	21
(3) のびっこの会	22
(4) 学生YM(W)CA	22
(5) 西南ラブ・グリーン	23
(6) ワークキャンプ部	23
(7) 手話サークル とびうめ	24
(8) ノートテイクサークル	24
(9) いと	25
(10) OPEN	25

そ の 他

印刷機・紙折機・裁断機の使用(無料)について	26
活動室利用について	
社会福祉協議会(社協)	
2013年度ボランティアセンター活動記録	28

はじめに



ボランティアセンター長 武井 俊詳

西南学院大学にご入学おめでとうございます。皆様のご入学を心からお祝いし、歓迎いたします。これから始まる学生生活、友との出会い、師との出会い、学問との出会いの中で、豊かな時間を過ごしてください。

本学では、ボランティア活動を建学の精神である「西南よ、キリストに忠実なれ」の具現化並びに大学の社会貢献の一つと位置づけ、学生・教職員等によるボランティア活動を支援・推進する部署としてボランティアセンターがあります。ボランティアセンターは、さまざまなボランティアの情報を提供し、皆さんの相談に応じています。お弁当容器やペットボトルキャップ、古本や古切手などを提供する身近なボランティアから、学生サポーターで地域の小・中学校で活動するボランティアや重度障害児者施設の久山療育園でのボランティアもあります。

また、昨年度は、東日本大震災ボランティアとして被災地に16チーム・125名の学生・教職員を派遣し、帰福後も街頭募金活動やチャリティコンサートなどの活動を福岡で展開しています。さらに、海外に目を向けると、フィリピンへ派遣する海外ボランティア・ワークキャンプが2003年度から実施されており、昨年度は17名の学生・教職員を派遣しました。参加した学生たちは、帰国後、ペットボトルキャップ回収で活動を続けています。他にもガイドブックで紹介しているボランティア活動のサークルもあり、皆さんの参加を心待ちにしています。学内だけでなく、学外からのボランティア依頼にも対応しています。

ボランティアは、子ども・高齢者・地域・環境・国際交流など、幅広い分野で展開されています。大学在学中にボランティア活動をすることで、同年齢だけでなく、乳児から高齢者まで、多くの幅広い年齢の方々や仲間と出会い、社会・地域・施設・行政・企業などとの出会いがあり、視野が広がることでしょう。自分に合う活動を見つけることで、自分自身をみつめる良い機会となり、自分の新たな一面と出会うかもしれません。

ぜひ、大学入学を機会にボランティア活動を始めてみてください。ボランティアセンターは、皆さんをいつも応援しています。

ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？

ボランティアセンターは、ボランティア活動を建学の精神の具現化並びに大学の社会貢献の一つと位置付け、学生、教職員等によるボランティア活動を支援・促進することを目的としています。センター内には、職員が常勤していますので、ボランティアをするのが初めての方や迷っている方など、どなたでもお気軽にご相談ください。

【場 所】 ボランティアセンター事務室：1号館 2階 エレベーター横
TEL 092-823-3662 FAX 092-823-3335

E-mail：swvoc@seinan-gu.ac.jp

【開館日】 通常期間 月～金 9：00～17：00
(長期休暇中や行事などで閉室する場合があります。)

【休館日】 土曜日、日曜日、国民の祝日、学院創立記念日、クリスマス、
年末年始、その他大学が特に定める日

【サポート】 ボランティア活動に関する相談、情報交換会の開催、
ボランティア情報・関連する講演会やイベント情報の発信、
ボランティアグループとの懇談会



【ボラセンが企画するボランティア】

- ・東日本大震災ボランティア
- ・海外ボランティア・ワークキャンプ
- ・学生サポーター
- ・他機関との連携
- ・久山療育園ボランティア
- ・緊急災害ボランティア
- ・ストプロ★寄付本プロジェクト
- ・その他

【学内外からの主な依頼】

- ・西南子どもプラザ
- ・聖書植物園
- ・防犯ボランティア隊 Green Angel
- ・イベントのお手伝い(障がい者施設・高齢者施設・学内など)
- ・街頭募金活動
- ・リサイクル、ゴミ拾い
- ・地域活性化活動(商店街など)
- ・その他

ボラセンからメッセージ

ボラセンのスタッフは、アドバイスするだけでなく、皆さんと一緒にボランティアや活動について、考えていきたいと思っています。まずは、いつでも気軽にたずねてきてください。皆さんとお話できるのを楽しみに待っています！



ボランティアって、なんだろう？

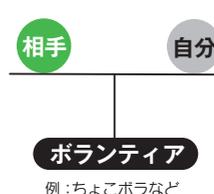
高齢者や障がい者、困ってる人の手助け？善意あるお手伝い？
どれも大事なことだけど、専門知識もないし、何だかすごいこと
ようで、想像すればするほど、難しそう・・・
なんて思っている人は多いのではないのでしょうか。

それでは、今までにこんな経験はありませんか？
バスの中で自分の席の前にお年寄りが・・・
『席をゆずろうかな、どうしようかなあ・・・』と
ソワソワした経験。
荷物を沢山抱えた人がドアの前で困っている・・・
『扉を開けてあげよう！』と駆け出した経験。



“ほっとけない”“あの人の為に何かしたい・・・”そんな、くすぐったいような、もどかしい
ような、モヤモヤした感覚。それこそが、ボランティアの種。皆さんの心にそっと芽生える
“ボランティアの種”を大事にして、育て、勇気を出して一歩前へ踏み出してみましょう。
“誰かのために”歩みだしたことが、結局は“自分にも何か与えられている”その2つが同時
に起こる素敵なことが「ボランティア」なのです。

イメージしてみよう！



ボランティア活動の4つの原則

自発性・自主性

義務や強制ではなく、“やりたい”と自分の意志で行う活動。自分の気持ち活動を活動として表現するので、人の心に働きかける力を持っている。

先駆性・創造性

今ある仕組みや発想にとらわれず、何が必要とされているのかを考えて、新しく創り出し、新しい仕組みやサービスを生み出すことができる活動。

無償性・非営利性

金銭的な報酬を期待するものではなく、自己満足することを目的としてはいけない。しかし、お金では得ることができない達成感や感動、仲間との共感、新たな出会い、発見を得ることができる活動。

社会性・公益性

多くの人と出会い、支え合い、学び合う活動。

いっしょにボランティアをやりませんか？

元人間科学部社会福祉学科 教授 山本 裕子

「ボランティア元年」を新たなキックオフの年として

わが国で「ボランティア」が一躍、時の話題にのぼったのは、1995年1月17日の阪神淡路大震災直後でした。マグニチュード7.3の直下型地震は、一瞬にして神戸市とその周辺を廃墟に変えました。家も生活も道路も寸断され、炎が町を焼き尽くしたとき、バックバックに食料を詰め込んで全国から駆けつけた大勢のボランティアは、被災者の救援やがれきの撤去作業に一心に携わりました。特に若者や学生ボランティアの参加が目立ち、「今どきの若者も見捨てたものではない」という称賛の言葉を、何度となく見聞きしたものです。クリエイティブで柔軟なボランティア活動は、被災者の個別ニーズに適宜応えることが出来るという点で、公的支援と異なる優位性をもっています。このようなボランティアへの期待と新たな認識を踏まえて、1995年を「ボランティア元年」として、ボランティア活動を推進する新たなキックオフの年と定めたのです。

ボランティアを推進する特定非営利活動促進法（NPO法）が制定されて

ボランティア活動が目目されるようになり、任意団体として活動していた既存のボランティア団体に、非営利の法人格が提供されるようになりました。政府は1998年に「特定非営利活動促進法」を制定して、ボランティア活動を推進したいと考えたのです。

法第一条（目的）には、以下のように記載されています。

この法律は、特定非営利活動を行う団体に法人格を賦与することにより、ボランティア活動をはじめとする、市民が行う自由な社会貢献活動としての特定非営利活動の健全な発展を促進し、もって公益の増進に寄与することを目標とする。

2013年1月現在、認証を受けたNPO法人の数は7,487件に上っています。

みなさんは「もしドラ」で若者の心をとらえたP.F. ドラッカーをご存じでしょうか。彼は非営利組織論者として、有名な研究者であり実践家でした。ドラッカーは非営利組織を、普遍的に「人間変革」と「市民性創造」の成果をもたらすものと説明しています。関心がある方は、文末に挙げている参考文献¹をぜひお読みください。「閉塞的な時代」と称される現代のわが国で、国民一人一人が自立した市民として、何をどのように考えて行動するべきなのか。ドラッカーは子どもに諭すような分かり易さで、私たちに語りかけているのです。

ボランティア国際年（2001）から「ボランティア国際年+10（プラステン）」へ

第52回国連総会において、2001年を「ボランティア国際年」とすることが決まりました。実はこれは国連ボランティア（UNV）としてカンボジアに派遣され、カンボジア暫定統治機構の総選挙監視員として活動中、銃弾に倒れた中田厚仁さんの父親が国連に提案したものです。厚仁さんが亡くなったのは1993年、26歳でした。息子さんの死後、父親の武仁

さんは2008年までボランティア精神の普及活動を続け、UNVの終身名誉大使とされました。「21世紀はボランティアで幕を開けたい」とする武仁さんの思いが、ボランティア国際年として叶えられたのです。

既にボランティア国際年から10年が過ぎました。国連は「ボランティア国際年+10(ブラステン)」を掲げ、2011年からの10年を、再びボランティアの推進年として世界中に発信しました。戦争や大地震、洪水、津波、干ばつ、貧困など、地球上の至る所で支援を求める人々のSOSが発信され、今や世界中で活動するボランティアは数千万人、一年間に生み出すボランティアの経済価値は4千億ドルにも昇ると言われています。

もちろん日本人も、たくさんの人が海外でボランティア活動に取り組んでいます。社会福祉学科の卒業生も、JICAで中国の子どもたちに野球を指導しました。また、ある女子学生は、海外ボランティアが契機となり、フィリピンの大学で学んでアジアの福祉問題を学びました。自分の善意を少しばかり提供するつもりでのボランティア活動で、実は自分自身がエンパワーされたという話をたびたび耳にしますが、この感覚はとても良くわかります。

私もボランティアを楽しみ、ボランティア仲間にも支えられて

私もたくさんのボランティアをやってきました。中でも最も力を注いでいるのは、社会的養護の中にいる子どもたちへの支援です。様々な事情で親と暮らせない乳幼児を、西区今津の「SOS子どもの村」²の5軒の家に受け入れて、実の家族のような絆を結び、里親さんが子どもたちを育てています。

この村は、市民(Citizen)と企業(Corporate)と地域(Community)の3つの社会貢献(Social Responsibility)を結集させ、行政の協力を得て、2010年4月に開村することが出来ました。資金集めから人材養成、地域との合意形成などのすべてを、「NPO子どもの村福岡」に集う人や団体による「ボランタリーな活動」で生み出しました。準備に要した4年間は、自主性に基づく無償(非営利)で、創造性豊かで、先駆的な活動を得意とするボランティアであればこそ、少しばかりスリリングで、真摯に仲間と手を携え、苦楽半ばする活動の日々でした。

開村から間もなく丸4年を迎えようとしています。幸いにもボランティアの数は増え続けています。「コボラ(=子ボラ)」というボランティアグループも結成されました。子どもたちの成長を楽しみながら、私たちもボランティア活動を通して、一人の市民として成長できていることを実感しています。

西南学院とボランティアセンター

本学では、2012年7月にボランティアセンターを開設しました。学内の掲示板にも、本学に寄せられたボランティア募集案内が所狭しとばかりに貼付されています。青春のエネルギーを、ボランティア活動に投じてみませんか？ボランティアセンターに集いましょう。

1 田中弥生『ドラッカー2002年の日本人への「予言」』2012、集英社

2 1949年オーストリアのチロル州イムスト村に最初のSOS子どもの村が建てられ、現在では世界133か国で村が作られている。SOSとはSave Our Soulsのアクロニムで、全ての人の魂の救済を意味する。

ボランティア活動について（相談～活動までの流れ）

①ボラセンに行ってみよう！ （1号館2階エレベーター横）

ほとんどの人が、大学生になって初めてボランティアをしています。ボラセンでは、初めての人を対象に講座なども開催しているので、自分に合う活動や講座を一緒に探しましょう。



※ボランティア登録をしよう！
（7ページ参照）



②自分にあうボランティア活動に参加してみよう！

参加したい活動が見つかったら、各自で団体に申し込みましょう。いよいよ、ボランティア活動の始まりです。申込んだ後は、各自で大学生としての自覚と責任をもって参加し、急に参加できなくなった場合も、必ず自分でお詫びの連絡をしましょう。困ったことが起きたら、ボラセンへ相談してくださいね。

③ボランティア活動について報告しよう！

活動が終了したら、ボラセンまで体験談をお寄せください。皆さんの体験談が、次にボランティアをする方への情報源として活用されます。



学生ボランティア登録について

ボラセンには、学内外から様々なボランティアの依頼があります。これらの依頼内容は、ポータルにアップしたり、ボラセンの掲示板に掲示しています。なお、ボランティア登録をされた方には、定期的にボランティア情報をメール配信しています。ぜひ、次の方法で登録をしてください。

※ボランティア登録は、年間を通して受付をしています。
(登録料・会費などは、一切かかりません。)

【登録方法】

E-mail swvoc-vol@seinan-gu.ac.jp 宛に
タイトル 「ボランティア登録」
本文に ①在学番号 ②氏名
をご記入の上、送信してください。
※メールは、在学番号のアドレスへ配信いたします。



《ボラセンのHPからも登録できます。》

ボランティア活動の心構え

1、無理せず、背伸びせず、楽しく継続

ふだんの暮らしに支障が出る活動は、長続きしません。自分の出来ることだけでなく、出来ないことについても活動先には伝え、自分に合った活動を選びボランティア活動を楽しみましょう。

2、最低限のマナーは守る

小さなことでも、活動先との約束は必ず守りましょう。特に時間厳守を意識し、遅刻や欠席の場合は、必ず各自で責任を持って活動先に連絡してください。突然、連絡が途絶えると、活動先は困ります！最後まで「西南学院大学の学生」である自覚をもって、行動しましょう。

3、身だしなみの確認

申込みの際、活動中の服装についても事前に確認し、特に、必要以上のアクセサリーは外して活動しましょう。活動前にもう一度、自分の身だしなみをチェックするよう心がけましょう。

4、秘密厳守（個人情報）

活動を通して知り得た個人情報は口外してはいけません。逆に、自分の連絡先も活動先の担当者以外に、みだりに教えてはいけません。また、安易に写真を撮ることは控え、活動先の許可を得てから撮影しましょう。

5、お互い気持ちよく、信頼関係を築こう

様々な思いの人たちが、いろいろな役割で関わっています。相手を尊重し、協力しながら、コミュニケーションを深め、信頼関係を築いていきましょう。



ボランティア活動

① ちょこボラ（ちょこっとボランティア）

今すぐ始められ、身近なところから自分のできることを無理なく楽しくマイペースにお手伝いできる「ちょこボラ」をご紹介します。

(1) 東北を応援するボランティア

① 東日本大震災義援金

東日本大震災復興支援の義援金を送ろう！

本学では、震災発生直後から義援金を募って被災地へ届けています。

(a) 日本バプテスト連盟の被災者救援募金 ほか

※寄付金控除の対象外です。

【口座】 西日本シティ銀行西新町支店
普通 1569416
「学校法人西南学院義援金口」

(b) 日本赤十字社の東北関東大震災義援金口座へ 抛出するもの

※2,000円を超える場合は、寄付金控除の対象となりますので、詳しくは最寄りの税務署にご確認ください。なお、確定申告の際は、銀行への振込み用紙（現金の場合は預り証）とこの文書の写しを添付ください。

【口座】 福岡銀行西新町支店
普通 2410816
「学校法人西南学院義援金口」

※各銀行本・支店窓口(ATMを除く)から振り込む場合は、振込手数料は不要です。



② お弁当容器の回収（義援金に協力できます）

お弁当容器を回収し、被災地に義援金を届けよう！

リリパック回収による払戻金が東日本大震災の被災地へ送る義援金になります。お弁当を食べ終わったら、赤い（もしくは黒い）フィルムをはがし、白い本体のみを回収ボックスへ！割れても大丈夫です！
弁当容器1個が10円の義援金として募金されます。

※生協、すずらんで販売されているお弁当のみ

【回収ボックス設置場所】

- 1号館：2・3階エレベーターホール、
- 2号館：学生ホール、2階廊下、
- 学術研究所1階ロビー、西南クロスプラザ1階、
- 西南会館…生協食堂、西棟1階ラウンジ



③手芸用品の回収

東日本大震災ボランティア活動で訪れる仮設住宅の皆様到手芸用品を集めています。お寄せいただいた手芸用品が、すてきな作品に生まれ変わります。仮設住宅の皆さんの作品は、バザーなどで販売しています。

【回収ボックス設置場所】ボランティアセンター

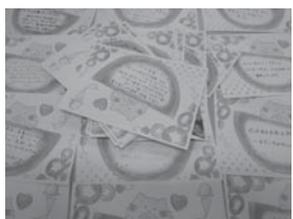
【回収品】布、毛糸、ボタン、針、はさみなど



④メッセージカードを贈る

東北の仮設住宅の皆様宛に、メッセージカードやクリスマスカード（メッセージ入り）を集めて届けています。お寄せいただいた温かいメッセージは、被災地の方へお届けいたします。

【配布場所】ボランティアセンター



(2) ペットボトルキャップの回収

ペットボトルキャップを回収し、世界の子どもたちにワクチンを届けよう！

飲み終わったペットボトルのキャップは、回収ボックスへ！

ペットボトルキャップ約2000個のリサイクル対価が、一人分のポリオワクチン（約20円）に相当します。

※リサイクル対価は市況によって変わる場合があります。

【回収ボックス設置場所】

本館、1号館2階入口、1号館3・4・5階の休憩室、2号館2・3・4階、4号館1階、西南会館、体育館前、生協食堂、クロスプラザ、2号館学生ラウンジほか



(3) ストプロ寄付本★プロジェクト

自宅で眠っている不要本を寄付して、路上で迷う若者たちを救いませんか？

親元で暮らせない子どもたち、不登校になった子どもたちに、高卒認定資格のための学習無料塾や就労のためのスキルアップ、居場所を提供する活動を行っている「一般社団法人ストリート・プロジェクト（略称ストプロ）」という団体があります。不要となった古本などを寄付し、売却代金をストプロへ寄付するプロジェクトです！

【回収ボックス設置場所】

学術研究所各階ロビー、法科大学院事務室内、

1号館2階ボランティアセンター

※業者の回収は、原則、第1・第3火曜日に回収します！

《対象となるもの》

専門書～趣味の本までOK・書込みされた本もOK

CD・DVD・ゲームソフト

《対象とならないもの》

（書籍）百科事典・同人誌・新聞・個人出版の本・復刻マンガ

（CD/DVD）ケースがない・サンプル・規格品番なし



(4) その他（古切手・書き損じハガキ）

使用済み切手、書き損じハガキなどを福祉活動や発展途上国の支援活動に役立てよう！

①古切手（使用済み切手）

封筒やハガキに貼ってある切手を、消印のスタンプ切手周囲1cmを残して切り取り、回収ボックスへ！

②書き損じハガキ

年賀状や通常ハガキで、ミスプリントしてしまったものなど、回収ボックスへ！

【回収ボックス設置場所】

ボラセン前の備え付け回収ボックス



2 東日本大震災ボランティア

2011年3月11日に起きた東日本大震災は、東北地方を中心として広域に渡って甚大な被害をもたらし、完全に復興するまでには、まだまだ時間がかかります。本学からも学生や教職員を派遣し、ボランティア活動を行っています。

2011年度 派遣
9チーム 102名

2012年度 派遣
10チーム 116名

2013年度 派遣
16チーム 125名



帰福後の活動

学生たちは、実際に被災地の状況を見て、感じ、被災地の皆さんと交流し、活動する中で、さまざまな想いを抱いて帰ってきました。学生たち一人ひとりの活動は「点」にすぎないけれど、みんなの「点」を集めれば「線」になるということを信じて活動してきました。学生たちは、東北の活動だけで終わらず、福岡でできることを考え、発信しています。

福岡での復興支援活動は、まだ東北に行ったことがない学生も参加できます。イベント当日のみの参加も可能です。まずは、自分でできることを考え、福岡で自分の「点」を残してみませんか？詳細はボラセンにお問い合わせください。

商学部 経営学科 樋口貴広

(遠野第2班changeチーム：岩手県大槌町で活動)

私は去年、東日本大震災ボランティアに参加させていただきました。このボランティアを通して、「ボランティアはしてあげるものではなく、させてもらえるものである」ということを感じました。私たちはこのボランティアを通して様々な人に支えられました。被災者の方々と接して感じ、考えることは普段決してできないような貴重な体験です。皆さんにもボランティアを通して、一つでも多くのものを感じ取って欲しいです。

人間科学部 社会福祉学科 宮田希未

(Cheersチーム：宮城県仙台で活動)

被災地は各メディアで復興が進んでいますと報じられていますが、私が見た風景は長年の月日が経った今でも震災当時の面影が残ったままでした。メディアは様々な規制があり、全てを発信することはできません。だから自分の目で見ないとわからないことがたくさんあります。自ら足を運び、多くを感じ取ってください。震災の事実を他人事のようにとらえないで積極的に関わって、多くの人に伝えてほしいです。

2013 年度実施

(1)5月11日・2014年3月1日

天神にて街頭募金活動

道行く方々が募金に協力していただきました。
温かいことばも声かけていただきました。



(2)6月29日 東日本大震災復興支援チャリティコンサート

卒業生の協力のもと、コンサートを開催しました。ロビーでは、仮設住宅の方々で作られた小物を販売したり、「はるかのひまわり」プロジェクトを展開して、東北へのメッセージを集めました。

※2014年度は6月28日(土)に実施予定です。



(3)11月14日～17日 大学祭にて模擬店出店

夏にインターンでお世話になった宮城県気仙沼の企業から材料を仕入れ、ワカメスープとシャークナゲットを販売しました。また、仮設住宅の方々で作られた小物を販売し、純利益は東日本大震災義援金に募金しました。模擬店ではパネル展示も行い、東北の状況を発信しました。



(4)学内パネル展

学内で、東北の現状をパネル展示し、情報発信しています。

・6月11日 東日本大震災 学内パネル展

・12月5日～12月18日

「東日本大震災1000日を覚えて」学内パネル展



法学部 法律学科 春奈南子

(東北学院大学：宮城県気仙沼で活動)

みなさんは、ボランティアに興味がありますか？自分の入学当時を振り返ると、ボランティアにはあまり興味がありませんでした。しかし、大学2年の夏に人生初のボランティアを被災地で行いました。かけがえのない出会い、多くの刺激を受け、そのときから、積極的にボランティアに参加しています。「自分のために行動するときよりも、誰かのために行動するときの方が、その喜びが上回ることがある」この気持ちを、ぜひみなさんに経験していただきたいです。

法学部 法律学科 小野裕佳

(仙台班虹色花火チーム：宮城県仙台で活動)

私は宮城県に行き被災地の今を見て聞いて、多くの“目に見えないもの”を持ち帰りました。「復興」って一体何だろう？そんな疑問にも沢山ぶつかりました。活動中に現地の方との何気ない会話、それが私の心に響きました。私達にできることは小さく見えるかもしれない、でも実は物凄く大きな意味があると身を持って痛感しました。最後に、今回参加させて頂いて経験で終わらせることなく次に繋げなければと強く思いました。

(5) はるかのみまわり

阪神・淡路大震災ゆかりの「はるかのみまわり」絆プロジェクトに参加し、キャンパスに「ひまわり」の種を植えました。2012年度震災ボランティアに参加した先輩たちが、宮城県門脇小学校から持ち帰った種でした。ひまわりを通して、震災のことだけでなく、命の大切さについても語り続けていきます。



(6) 2014年1月9日～1月15日 東日本大震災写真展

「みちのくPhoto caravan @西南学院大学
—東北のキセキとは?—

フォトジャーナリストと学生ボランティアが写真を通して東北の軌跡と奇跡を伝える写真展を開催しました。



(7) 1月16日 東日本大震災ボランティア報告会

2013年度東日本大震災ボランティアで活動した学生たちが、チーム毎に発表しました。先輩たちから後輩たちへ、一人ひとりの「点」が、つながって「線」になっていることを実感しました。



文学部 英文学科 木本真菜美

(遠野第1班ひまわりチーム：岩手県大槌町で活動)

私は岩手県大槌町へボランティアに行かせていただきました。あまり話し上手でもない自分が仮設の方々と交流など出来るのかと不安でしたが、充実した楽しいそして、短い5日間となりました。ボランティアをする前、私は復興を大きく捉え、そして自分を小さく捉え、無力さを感じていました。しかし活動を通して、私にも出来ることは沢山あるのだと気づくことが出来ました。嬉しいと同時に、気が引き締まる思いでいます。今も支援活動を続けています。

法学部 法律学科 山本明日香

(東北学院大学：宮城県気仙沼で活動)

初めて東北を訪れたのは震災から一年後で、ただ眺めることしか出来ませんでした。そして2013年の夏、同じ場所を訪れ、現地の方と共に活動し、生の声を聞くことが出来ました。ただ行っただけで終わらないように、私は福岡から出来ることを続けています。想いをかたにしにしないことほどもったいないことはありません。震災ボランティアに限らず、何かの力になりたい、そう思えることがあるならば、まずは行動してみませんか？

③ 学生サポーター

福岡市教育委員会と連携し、福岡市内の学校・幼稚園の要望に応じて、各学校・園へ派遣するというプログラムで、派遣される学生を“学生サポーター”と呼んでいます。学生サポーターは、派遣先の各学校・園において主に、授業や学校行事の補助、クラブ活動の支援などのサポートをしています。社会人としての経験に加え、教育現場で児童生徒と直接接することで教育活動を体験できる良い機会となっています。教職を履修していない学生も参加できます。



※詳細はポータルや、説明会で確認してください。

4月下旬に説明会を開催する予定です。年間を通して、相談に応じています。

人間科学部 児童教育学科 蓮尾絢音

(小学校で活動)

始めたきっかけは、座学だけでなく経験を通して学びたい、将来の進路について考えたいと思ったからです。支援の仕方について難しさを感じる事もありますが、子どもたちの成長に喜びを感じる事もたくさんあります。先生方からも様々な事を教えて頂き、教師を目指す学生として配慮して頂けることをありがたく思いました。私はこの経験を通して教師になる事を決意し、夢を叶える事ができました。この経験を教師になって活かしていきたいと思います。

人間科学部 児童教育学科 靄見百合香

(小学校・中学校で活動)

私は、2年生の後期から学生サポーターを続けています。中学校での放課後の課外授業や、小学校での算数のまるつけなどの授業補助、また休み時間には子ども達と沢山遊んだり、貴重な経験をさせて頂きました。学生サポーターでの経験を教育実習にも活かすことが出来、また迷っていた将来について深く考えることも出来ました。教師を目指している人はもちろん、将来について迷っている人にもぜひ活動してほしいです。

人間科学部 児童教育学科 富木晶子

(幼稚園で活動)

私は2年生から幼稚園で学生サポーターをしています。活動は毎週とても楽しく、講義や実習だけでは学べない貴重な経験をさせていただいています。昨年は運動会や生活発表会といった大きな行事に参加し、一から作り上げていく大変さと子どもたちの日々の成長を感じました。学生サポーターは、自分が活動可能な曜日や時間を調整できるので、講義にもしっかり出席しつつ、たくさんの貴重な経験ができるという魅力があります。今後もさらに活動を続けていきたいです。



④ 国内ボランティア

① 久山療育園

久山療育園重症児者医療療育センターは、西南学院と同じ日本バプテスト連盟の関連施設で、重度の知的・身体障害を重複する障がい者に対して、医療・看護・機能訓練・保育などを行っています。重症心身障がい者が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置づけられることを願って設立された施設です。本学では、定期的に交流し、ボランティア派遣や講習会、チャリティコンサートなどを開催します。
※詳細はポータルで案内します。



人間科学部 児童教育学科 植田めぐみ

ボランティアに参加して一番感じたことは、「チームワークの大切さ」です。開園祭では、園内の方、保護者や地域の方たちがみんな協力して楽しいお祭りを作り上げていました。私達学生も一緒にそのチームの一員として参加させていただき、大変さを感じる以上に一体感を感じることができ、楽しかったです。また、園内の方とふれ合ったり、お手伝いをしたりなど人との関わりをより深く感じることができました。なにより、その場所にいる方達の笑顔が最高にキラキラしています。

このボランティアは毎年参加者を募集されています。私は4年生になって初めて参加させていただきましたが、ぜひ何度でも参加してください。(自分が後悔しています)自分も成長していきながら園内の方の成長を感じたり、様々なジャンルのお手伝いができます。

まずは、久山療育園がどんなところなのかネットや学校で調べてみてください。相手を知ることから始めてみましょう！そして、キラキラの笑顔をチームワークの大切さを実際に感じてみてください！

② ボランティア講座〈ノートテイク講座〉ほか

2013年度は講師に、特定非営利活動法人障がい者相互支援センターMCPの方をお招きし、学生部課外教育プログラムで実施された基礎講演会の応用編6時間講座を開催しました。
※ノートテイク・・・聴覚障がいを持つ学生の耳の代わりとなり、授業などその場の「音」を「文字」にして視覚的に伝えるという支援の方法です。



⑤ 海外ボランティア

海外ボランティア・ワークキャンプ

2003年度から、毎年フィリピンでワークキャンプを実施しています。日本・フィリピン国際飢餓対策機構の協力のもと、同じアジアの中で違う「アジア」を体験し、地元の人たちとの交流や貧困地域での奉仕活動を行い、ボランティアマインドを涵養することを目的に活動しています。



1. 活動期間：2月～3月の11日間
2. 活動場所：フィリピンマニラ郊外
3. 活動内容：貧困地域での奉仕活動、地元の人たちとの交流
小学校訪問、家屋修理や校舎の建築などのワーク
4. 募集方法：ポータルにて案内（説明会有）
5. 募集人数：約15名

人間科学部 心理学科 案浦稜彗

我々が訪れた地域はフィリピンの中でも貧困の地域であり、生活水準は良好とはいえませんでした。しかしそこに住む人々はその状況に絶望せず、明るく日々の生活を送っていました。彼らは私よりも遥かに健康的な心を持ち、生きる力が強いと思いました。私はこれを機に世界を見る視野が広がり、人生観も少し変わりました。興味のある方はぜひワークキャンプに参加して、日本では味わえない体験をしていただきたいと思います。

法学部 法律学科 井口遥菜

フィリピンワークキャンプでは、たくさんの人との出会いを通して、キラキラした笑顔と心からの優しさに囲まれて素晴らしい時間を過ごすことができました。日本での生活と比べて物質的な面で貧しさを感じることもありましたが、現地の人々は貧しい中でも豊かな心を持っており、家族を大切に、幸せそうに暮らしていました。私にとって新しい気づきや学びがたくさん与えられて、感謝で溢れた経験になりました。

経済学部 経済学科 中村聡志

フィリピンで見た風景や食べ物、出逢った人、生活すべてが僕にとって新しい体験ばかりでした。毎日、感じることも日本ではなかなか得ることのできないことばかりです。実際に行ってみてください。フィリピンに対するイメージ、貧困の考え方がきっと変わります。

国際文化学部 国際文化学科 大淵美沙

フィリピンの人々は、日本と比較すれば、確かに物質的には貧しいかもしれませんが、しかし実際に足を運び、人々と触れ合うと、きっと一言では語るることのできない「豊かさ」を感じる事が出来ます。ぜひフィリピンを訪れ、たくさんの人に笑顔の大切さを知っていただければと思います。行けばきっとフィリピンが大好きになりますよ！

⑥ 学内ボランティア

① 西南子どもプラザ

本学の学生で、ボランティアや西南子どもプラザに興味のある方であれば、経験、専門は問いません。クラブ・サークル単位での参加も歓迎します。

対 象：本学学生

活動時間：10：00～17：00の都合の良い時間（日曜除く）

場 所：西南子どもプラザ

活動内容：来館した親子と遊ぶ
おもちゃの制作や消毒
行事の手伝い
外国人親子との会話の手助け 等

申込み方法：問合せ先へ連絡し、子どもプラザボランティアに登録する。（随時受付）

問合せ先：西南子どもプラザ 092-846-9207



② 聖書植物園

大学では、聖書に登場する植物を集めた「聖書植物園」を管理運営しています。その植物園のメンテナンスに必要な草取り等の活動を行っています。

活 動 日：毎月 第3土曜日 9：00～12：00

持 ち 物：軍手、帽子、タオル

参加方法：9：00本館前現地集合（小雨決行）
（予約・申込なし。当日参加OKです！）

問合せ先：総 務 課 092-823-3201
夜間・休日 092-841-1316



③ 防犯ボランティア隊 Green Angel

「地域の安全は地域でまもる。大学の安全は大学でまもる」をモットーに、防犯パトロールや防犯キャンペーンに参加して、安全・安心な大学生活の実現を目指すボランティア団体です。

活 動 日：毎月 第1水曜日 15：30～

問合せ先：学生課 092-823-3837



④ その他

随時、広報課や入試課など、学内各部署毎に募集しています。詳細は、ポータルにアップします。※4月中旬に合同説明会を開催予定です。

7 他機関連携 ※ 2013 年度実施

① 大学生災害ボランティアサポーター養成講座

福岡県が主催する大学生災害ボランティアサポーター養成講座を本学も連携して実施しました。基礎研修、専門研修を実施後、被災地へ派遣ボランティアとして活動しました。(福岡県八女市、山口県、島根県、岩手県)



国際文化学部 国際文化学科 鈴木花菜

東日本大震災以降、災害支援の市民活動に取り組む中で、福岡県主催の災害ボランティアサポーター養成講座に参加しました。災害時に設置されるボランティアセンターの仕組みを学び、実践的なロールプレイングでボランティアを受け入れる側を体験しました。2日間の研修から、震災を身近なものとして考え、私たち若い力が地域の復興に不可欠だと感じました。私が所属している「※九援隊」では、九州を中心に災害支援を地道に続けています。地域のためにできることは身近にあるので、ボランティアの輪が広がるよう今後も活動していきたいです。

※東日本大震災九州各県自治体職員被災地支援派遣隊交流会
災害ボランティアグループの略称

② ふくおか学生ボランティアミーティング (あすみん)

地域社会で社会貢献活動ができる学生ボランティアを育成する第一歩として、参加学生間のネットワークづくりを行う交流の場であり、「人と出会う」「地域と出会う」「やりたいことに出会う」をテーマに「出会い」の講座を開催しました。地域・行政・NPO関係者・他大学の学生など、幅広い方々が参加しました。

※あすみん：「明日(あす)の市民(しみん)」の思いを込めた公設民営のサポートセンター



③ NGO 交流会 (FUNN 団体説明会)

団体毎にブースを設置し、団体の活動紹介、スタディツアーやワークキャンプの紹介、NGO入門講座など、福岡のNGO活動について、一度に話を聞くことのできる貴重な機会となりました。



※FUNN：国際協力や交流を推進することを目的とした福岡地区NGOネットワーク組織

④ NGO 交流会（NICE：NGOリーダー来日）

アジア各国でそれぞれの地域課題に対し、国際ワークキャンプという手法を通して解決に取り組んでいるNGOのリーダーから、「各国の課題背景」と「解決策の事例」をセットで話していただきました。

※NICE：日本を中心に国内・海外ボランティアの各種ワークキャンプを主催するNGO団体



商学部 経営学科 松下桃子
(NICEにて活動)

みなさんは、ドイツから年賀状が届いたり、ワカメの収穫をしたり、40人の子どもとキャンプをしたり…なんて経験ありますか？これらは、私が「NGO団体NICE」が行う合宿型ボランティアで得た経験です。様々な地域へ人と出会い、日本やアジアではメンバーのリーダーを務める事も出来ます。英語が不安でも、大きく成長するチャンスです。泥臭く、でもドラマチックなワークキャンプに皆さんも参加してみませんか？



⑤ NGO 交流会(ソルトパヤタス：フィリピン『Likha』のメンバー来日)

フィリピン「Likha」のメンバー2名が来日し、貧困から抜け出して希望の連鎖へ変えたいという想いで奮闘している現地の体験談を聞き、交流したり、フェアトレードを考えるイベントを開催しました。

※ソルトパヤタス：フィリピンの貧困地区で、人々が望む未来を自らで描き、自らの力で実現していけるよう、子どもと女性を中心に教育と収入向上の支援を行う団体



法学部 国際関係法学科 青木雅詠
(ソルトパヤタスにてインターン活動)

インターンでは、フィリピンに滞在し、スタディツアーの補助と子どもエンパワーメント事業を担当していました。支援活動と言えど、主体はあくまでも現地スタッフや子どもたちです。ワークショップの提案や日本語の絵本の英訳など、私だから出来ることを探し、挑戦していきました。大切なことは失敗を恐れず挑戦してみること！上手くいかないこともありましたが、その分自分の糧になる新しい出会い、発見、学びを得ることができました。

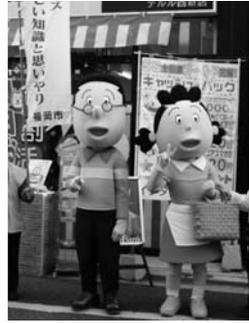


⑧ 学外ボランティア

ボラセンには、学外のさまざまな団体からボランティアの依頼やイベント・スタディツアーなどの案内があります。

例えば、イベントスタッフ、着ぐるみのボランティア、清掃、公民館でのふれあいサロン、子ども会イベント補助、福祉施設でのボランティアなど、さまざまな分野の情報です。

詳細はボラセンにおたずねください。



カンボジアスタディツアー参加

※一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン：
カンボジアにおける「地雷撤去支援」「地雷被害者支援」「地雷原での学校建設」「現地ラジオ番組の制作・放送」に取り組んでいる団体



文学部 英文学科 平田咲樹
(スタディツアーに参加)

私は昨年、地雷撤去キャンペーンというNGO団体を利用してカンボジアへ行って来ました。正直、カンボジアは世界遺産の印象だけで、貧困のイメージはなかったのですが、実際に現地へ行ってみると、今もなお地雷が埋められた土地で危険と隣り合わせで暮らしている人々、物乞いをする子ども達、地雷の被害者が多く、大変衝撃を受けました。この経験から国際協力の意識がより高まり、自分自身を見つめ直すきっかけになりました。

⑨ 学生ボランティア団体助成

一般財団法人学生サポートセンターが主催する「学生ボランティア団体支援」に、ボランティア団体Mitsが選ばれ表彰されました。これは、学生のボランティア活動を社会参加の第一歩と位置付け、「自由な発想と行動力」によって、社会貢献を計画・実行している学生の団体を対象に、団体組織の活性化やネットワーク作りなどを経済的に支援し、社会貢献活動を応援するというものです。



学生グループ活動（サークル紹介）

本学には、サークルをはじめ、たくさんのボランティア団体があり、それぞれがテーマや目標を持って取り組んでいます。興味のある方は、ぜひ代表者へ連絡して、活動に参加してくださいね。

(1) Mits

活動日：毎週水曜日昼休み
活動場所：1号館201教室
代表者：茅原千有希（文学部 英文学科）
連絡先：s15ab043@seinan-gu.ac.jp

「Mits」（みつ）は、大学主催の海外ボランティア・ワークキャンプ（フィリピン）に参加した学生たちが、帰国後もボランティア活動を継続するために立ち上げたボランティア・サークルです。現在は参加者だけでなく、Mitsの活動に関心がある学生も加えて、次の「3つ」のことを目的として活動しています。

- ① Learn: 国際問題（貧困、飢餓、差別など）を学んで理解を深めること。
- ② Serve: 学んで理解したことを生かし、自らができることを考え行動すること。
- ③ Grow: 行動した体験と学びを伝えることによって、さらに一人の人として成長すること。

活動は海外ボランティア・ワークキャンプで連携している日本国際飢餓対策機構と協力関係を結び、寄付金活動、団体の活動報告、里親支援などを学内・学外で行っています。日頃の活動としては、毎週水曜日に定例ミーティング及び勉強会を開催するとともに、世界の子どもたちへフワクチンを届けるために、学内に回収容器を設置し、ペットボトルキャップ回収活動を行っています。

私たちMitsは常に貧困問題に関心を持ち、行動し、体験を活かし、それぞれが置かれた環境で、今出来ることから始めています。少しでも私たちの活動に興味のある方は一度体験に来てください。



(2) Think&Act

活動日：毎週木曜日
活動場所：代表者にお問い合わせください
代表者：萩原ゆかり（法学部 国際関係法学科）
連絡先：s16am082@seinan-gu.ac.jp

Think&Actは、国際協力・国際交流を行う学生団体です。2012年の夏に海外ボランティアやインターンを経験したメンバーが、この体験を後輩にも受け継ぎたいとい

う思いから2013年春に正式に団体として活動を始めました。2013年は国連ハピタットで募金箱に集められたコインを職員の方と一緒に国別に仕分けしたり、JICA九州国際センターを訪問し、JICAの概要や青年海外協力隊の体験談などを聞いたり、ワークキャンプを行いました。11月に行われる大学祭では、留学生と一緒にフレンチトーストを販売し、売り上げの一部を、台風発生により被害を受けたフィリピンへ寄付しました。その他留学生とのボーリング大会やクリスマスパーティーなどのイベントも沢山あり、楽しく活動を行っています。



(3) のびっこの会

活動日：第2・第4土曜日の午後
活動場所：5号館
代表者：仲 祥司（人間科学部 児童教育学科）
連絡先：s16an086@seinan-gu.ac.jp

のびっこの会は障がいをもった子どもたちとその兄弟児と一緒に遊ぶサークルです。2008年度に国際ソロプチミスト福岡－中央よりシグマソサイエティとして

承認されました。毎月第2・第4土曜日のお昼から主に5号館で活動しています。現在は70名以上の学生が在籍し、15名ほどの子どもたちと交流しています。

活動では工作をしたり、お菓子を作ったり、夏にはキャンプ、冬にはクリスマス会、社会見学や能古島に行ったりします。活動内容の決定や準備などは学生たちですべて行い、そのために毎週火曜日の昼休みに学生で集まって話し合いをしています。

また、活動以外にも本屋での絵本の読み聞かせやNHKでのボランティアにも参加しています。興味がある方はぜひ見学に来てください！（^o^）



(4) 学生YM(W)CA

活動日：毎週水曜日 15:15～
活動場所：4号館410教室（部会）
代表者：長沼健二郎（商学部 商学科）
連絡先：s16af072@seinan-gu.ac.jp

私たち学生YM(W)CAは、5つの班に分かれてそれぞれのテーマに沿ったボランティアを行っています。小学生と一緒に近くの公民館で様々な体験をしたり、施設に

行って、障害者の子どもたちと遊んだり、また、たくさんの外国の子どもたちに勉強を教えたりしています。他にも、ユニセフ募金、地域清掃など幅広いボランティアをさせていただいています。ボランティアをして、たくさんの人と関われることで、人と触れ合うことの楽しさ、そしてボランティア自体の楽しさを学ぶことを目標とし、活動しています。



(5) 西南ラブ・グリーン

活動日：不定期
活動場所：福岡ヤフオク!ドーム・福岡市役所・
西新商店街など
代表者：池田真士（法学部 法律学科）
連絡先：s16a1059@seinan-gu.ac.jp

西南ラブ・グリーンは、eco活動・地域と商店街でのボランティア活動を行っています。

福岡工業大学、中村学園大学、九州大学、福岡女学院大学、福岡大学、専門学校など他

学校と200名のネットワークを構築して、市役所などの行政や、企業、地域、商店街と連携して活動しています。福岡ソフトバンクホークスとのドームでのクリーンアップ活動、海岸清掃、SeaWeedFes.という海を守るコンセプトの野外フェスの企画、大学祭でのゴミO推進活動、エコ食器・ゴミ分別ブース運営などのほか、学童保育施設の子どもたちへのボランティア活動や、地域商店街のお祭り運営・企画のボランティアも行って



(6) ワークキャンプ部

活動日：毎週水曜日
活動場所：西南会館5階
代表者：新郷拓也（人間学部 社会福祉学科）
連絡先：s16ap078@seinan-gu.ac.jp

ワークキャンプ部は5大学合同（九州産業大学、九州大学、西日本短期大学、福岡女子大学、西南学院大学）のサークルで、5つの研究会に分かれてボランティア活

動をしています。活動内容は、各研究会でさまざまですが、主に施設に訪問して子どもたち、入所者の皆さんとふれ合ったり、在宅障がい者、施設の皆さんのお宅を訪問し、レクリエーションや、一緒に外出したりしています。他にも西南ワークキャンプ部では、高取にある「みどりのその」の利用者の方々と一緒にバザーのお手伝いなどもしています。これからもいろいろな人と出会い、喜びを共有していきたいです。



(7) 手話サークル とびうめ

活動日：毎週水曜日 4時限目
活動場所：教室（部屋は未定）
代表者：森永理紗（人間科学部 社会福祉学科）
連絡先：s16ap068@seinan-gu.ac.jp

私たちは毎週水曜日4限に集まり、ご自身もろうあ者であり、手話の講義も担当していらっしゃる福田先生に教えていただきながら、手話やろうあ者の生活・文化

などを学んでいます。学ぶ中で難しいこともありますが、毎週楽しく活動しています。NPO法人グランドワーク福岡が主催する「花のジョイントコンサート」というイベントに毎年参加し、昨年までは手話通訳を、今年はお時間をいただき手話で「世界に一つだけの花」を発表しました。また、手話検定も積極的に受験しています。難しいと思われるかもしれませんが、とても和気あいあいとした楽しく学べるサークルです！



(8) ノートテイクサークル

活動日：毎週水曜日昼休み
活動場所：1号館2階活動室
代表者：豊野輝（人間科学部 社会福祉学科）
連絡先：s15ap030@seinan-gu.ac.jp

ノートテイクとは聴覚障がい者の方と共に講義を受け、先生の話される言葉を文字に起こすことです。私たちは毎週水曜日に1号館2階の活動室を借りノート

テイクのスキルアップやゲームを行い楽しく活動しています。実際に聴覚障がい学生と一緒に講義に入りノートテイクも行っています。

2014年度はNPO 法人の方からノートテイクに関する講義をしていただいたり、学内の他のサークルや、他大学のノートテイクサークルとの交流も予定しています。興味のある方は是非ご連絡ください！



(9) いと

活動日：不定期
活動場所：1号館2階活動室
代表者：山下颯太（商学部 経営学科）
連絡先：s17ag046@seinan-gu.ac.jp

「いと」は、大学主催の東日本大震災ボランティアに参加した学生たちが、福岡でできる活動を始めようと2013年春に設立した団体です。「いと」とは、一つ一つの点の活

動をつなげて線にする、という意味が込められています。東日本大震災の支援活動として、街頭募金活動や、チャリティーイベントの参加、プレゼンテーションなど、活動幅は広く、これからは、東北だけでなく災害復興支援として、どんどん色々なことをやっていきます！定期的な活動はありません。イベントごとに各々が協力できる範囲で力を合わせる、というスタンスです。「こんなことやってみたいなあ」「こんなことできないかなあ」、と思っている皆さん！「いと」はそれを皆で実現していく場所です。ぜひ一緒に活動してみませんか？



(10) OPEN

活動日：週1休休み(+不定期)
活動場所：1号館2階活動室
代表者：茅原千有希（文学部 英文学科）
連絡先：s15ab043@seinan-gu.ac.jp



OPENとは…(ボランティアセンターの学生スタッフです^^)

O…Opportunity *ボランティアの紹介を通じて出会いの“機会”を！*

P…Peace *ボランティアを通して“安らぎ”をみんなの心に！*

E…Enjoy *西南生が“エンジョイ”できる場作りをお手伝い！*

N…Network *人が“つながる”場所を作ります！*

今までの活動：広報活動(三角柱、ポスター作り：ノートテイク・支援学校) 他サークルのイベントのお手伝い、OPEN内での交流会

今後の活動：ボランティアの企画、運営、OPEN内での交流会、企画、発案のためのマナビバ(最近のNewsや、気になる話題をシェアする学び場) 他ボランティアサークルとの交流会

こんな人集まれ!!：ボランティアを企画・運営したい人、なんでもいいからボランティアしたい人、こんな活動がしたいけど手伝ってくれる人がいなくて困ってる人、他サークルとの掛け持ちOK!!



その他

印刷機・紙折機・裁断機の使用（無料）について

利用できる団体

・学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボランティアセンターが許可した団体

利用の手続き

印刷機・・・(用紙については各自で用意すること)

・ボラセンで、学生証と引き換えに印刷機利用カードを受取り、使用する。

・使用申込書に団体名、使用枚数を記入し、使用する。

・使用后、ボラセンで印刷機利用カードを返却し、学生証を受取る。

紙折機・裁断機

使用前・使用後に、ボラセンに団体名などを告げる。

活動室の利用について

利用できる団体

・学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボランティアセンターが許可した団体

・団体設立に向けて検討中の場合は相談すること。

利用の手続き

ボラセンで活動室の予約をする。

【利用可能な時間】

通常期間 月～金 9:00～17:00

※長期休暇中や行事などで閉室する場合があります。



社会福祉協議会(社協)

地域に暮らす高齢者や障がい者をはじめ、すべての市民が住み慣れた地域で、安心して住める福祉のまちづくりを目指しながら、地域の様々な福祉課題を解決していくために、社会福祉事業の企画・実施・ボランティア活動の推進、福祉関係者の連絡調整等を行っている団体です。また、全国、都道府県、政令指定都市、市町村にそれぞれ設置されています。

※「社会福祉協議会」は、長い名称なので、略して「社協(しゃきょう)」とも呼ばれています。



ボランティア活動保険

ボランティア活動中や行き帰りにケガをした時、また活動先の物を壊したり、人にケガをさせた場合に補償をするのが「ボランティア活動保険」です。万が一の備えや安心して活動ができるよう、活動が始める前に加入されることをお勧めします。

※ボランティア保険は、自治体によってこととなりますが、主に300円前後～の掛け金で、万が一の事故を補償してくれます。(加入日から当該年度の3月31日まで有効)



加入申込の手続き

福岡市・各区の社会福祉協議会



1

社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会

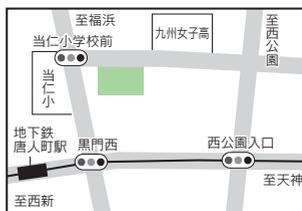
〒816-0804
福岡県春日市原町3-1-7
福岡県総合福祉センター (クローバープラザ)内
t e l . 092-584-3377
f a x . 092-584-3369・3381



2

社会福祉法人福岡市社会福祉協議会 ボランティアセンター

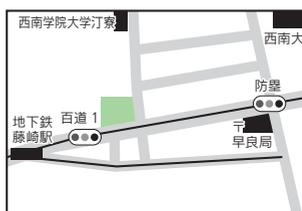
〒810-0062
福岡市中央区荒戸3丁目3-39
市民福祉プラザ2階
t e l . 092-713-0777
f a x . 092-713-0778



3

社会福祉法人福岡市早良区社会福祉協議会 早良区ボランティアセンター

〒814-0006
福岡市早良区百道1-1-1
UMIBE B.L.D 1階
t e l . 092-832-7383
f a x . 092-832-7382

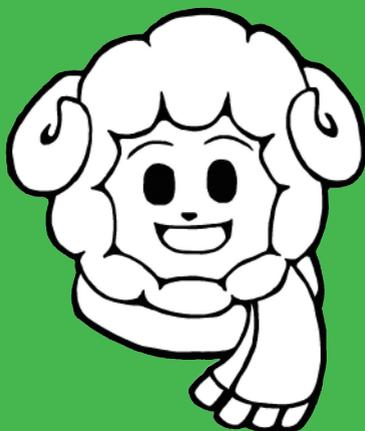


2013 年度ボランティアセンター活動記録

通 年	東日本大震災ボランティア	海外ボランティア 国際交流	その他	
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅へメッセージカードの送付 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外ホ ヲンティア・ワークショップ事後研修会 (4/12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ASEAN大学生との交流会 (4/5) ・学生サポーター前期説明会 (4/24) 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭募金 (5/11) *震災ボランティア派遣学生による ・はるかひまわり【植替え】 (5/22) 		<ul style="list-style-type: none"> ・ふくおか学生ホ ヲンティアミニテ ィク【あずみん】 (5/16) ・九州北部豪雨被災地支援ホ ヲンティア派遣【福岡県主催】 (5/18・19) ・学生ホ ヲンティア団体助成金表彰紹介 (5/28) 	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・学内バ ー 祈展 (6/11) ・募集説明会 (6/26・27) ・復興支援ホ ヲンティアサ ー ト (6/29) *仮設住宅の方の作品を委託販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学チャペル報告 (海外ホ ヲンティア・ワークショップ参加者 6/6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくおか学生ホ ヲンティアミニテ ィク【あずみん】 (6/20) 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> 弁当容器回収 寄付本回収 古切手回収 ハガキ回収 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会 (7/24) ・仙台班チーム研修 (7/31) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外ホ ヲンティアミニ講座 (7/4) ・NGO合同説明会【FUNN】 (7/17) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体説明会 (7/3) ・大学生災害ホ ヲンティアホ ー ー 養成講座【福岡県主催】 (7/9)
8月	<ul style="list-style-type: none"> 手芸用品回収 (被災地支援) メッセージカード (被災地支援) 義援金 (東日本大震災) 学生ホ ー ー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア派遣 神 学 部 (8/7~8/10) 仙 台 (8/9~8/13) 遠野1班 (8/27~8/31) 東北学院第4クール (8/25~8/31) 社会福祉学科 (8/30~9/3) *遠野1班チーム研修 (8/23) ・インターン派遣 東北学院気仙沼第1クール (8/25~9/1) *事前研修 (8/8・9・19・26) ・仮設住宅へメッセージカードの送付 *ボランティア派遣者からの手渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ・大学生災害ホ ヲンティアホ ー ー 養成講座 (派遣:九州北部豪雨及び山口・島根豪雨被災地支援)【福岡県主催】 (8/3・4・10・11)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・はるかひまわり【種収穫】 (9/26) ・仮設住宅へメッセージカードの送付 *ボランティア派遣者からの手渡し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア派遣 遠野2班 (9/17~9/21) 東北学院第5クール (9/1~9/7) 東北学院第6クール (9/8~9/14) *引継会、チーム研修(9/10・25) ・インターン派遣 東北学院気仙沼第2クール (9/1~9/8) 東北学院南三陸第2クール (9/8~9/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生災害ホ ヲンティアホ ー ー 養成講座 (応用研修 in 西南学院大学)【福岡県主催】 (9/13・14) ・大学ホ ヲンティアホ ー ー 全国フォーラム (9/14・9/15) ・大学生災害ホ ヲンティアホ ー ー 養成講座 (応用研修 in 久留米大学)【福岡県主催】 (9/21・22) *西南の学生による事例発表 ・久山療育園開園祭ボランティア(9/23) 	

2013 年度ボランティアセンター活動記録

通 年	東日本大震災ボランティア	海外ボランティア 国際交流	その他
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア派遣 遠野3班 (10/8~12) ・ 手芸道具で被災地支援(10/11~16) ・ 被災地支援手芸用品送付 ・ 仮設住宅へメッセージカードの送付 *ボランティア派遣者からの手渡し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外ボランティア・ワークショップ 募集説明会 (10/31) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生サポーター後期募集、 受付 (10/9~10/15)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア派遣 遠野4班 (11/19~11/23) *引継会、チーム研修 (11/6) ・ 被災地支援手芸用品送付 ・ 仮設住宅へメッセージカードの送付 *ボランティア派遣者からの手渡し ・ 大学祭出店(学生ボランティア団体) (11/14~17) *仮設住宅の方の作品を委託販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・ NGO交流会【NICE】 (11/19) ・ フィリピン・山梨島台風被災 救援金 ・ 加東アジア大運動会アウェイ 外 *支援物資寄付BOX設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生災害ボランティア 養成講座(応用研修 in 福岡県立大学)【福岡県主催】 *西南の学生による事例発表
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮設住宅へクリスマスカードの送付 ・ 被災地支援手芸用品の提供者へクリスマス カードの送付 ・ 東北学院大学シンポジウム ・ 東日本大震災1000日を覚えて 学内パネル展 (12/5~18) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ NGO交流会【リトル・サ ン】 (12/11) ・ 海外ボランティア・ワークショップ 事前研修会 (12/18) ・ カンボジア支援 *支援物資寄付BOX設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ストップフェスタ (12/1) ・ 大学生災害ボランティア 養成講座(応用研修 in 福岡女子大学)【福岡県主催】 *西南の学生による事例発表
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災写真展 みちのく photo caravan @西南学院 大学「東北の絆」とは? (1/9~15) ・ 震災ボランティア報告会 (1/16) ・ 春休みイターン派遣者事前研修会 (1/30・31) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外ボランティア・ワークショップ 事前研修会 (1/8・15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内展示会(福岡中央 支援学校) in 西南学院 大学 (1/22~1/30) ・ 学生ボランティア団体助成 金表彰式 in 京都(1/31)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ イターン派遣 東北学院南三陸クール (2/16~23) ・ 東北学院気仙沼クール (2/23~3/2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外ボランティア・ワークショップ 事前研修会 (2/25) ・ 海外ボランティア・ワークショップ 派遣 (2/28~3/10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノートテイク講座 (2/18) ・ 学生サポーター報告会 (2/20) *西南の学生による発表
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街頭募金 (3/1) ・ Smile Fukuoka to Tohoku 3.11~東日本大震災に思いを寄せる~ (3/9) ・ はるかのみまわりプロジェクト 【種植え】(3月下旬) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外ボランティア・ワークショップ 派遣 (2/28~3/10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生災害ボランティア 養成講座(派遣:岩手県) 【福岡県主催】 (3/11~17)



西南学院大学 ボランティアガイドブック

2014(平成26)年4月
発行／西南学院大学 ボランティアセンター
福岡市早良区西新6丁目2-92
TEL 092-823-3662 FAX 092-823-3335
E-mail : swvoc@seinan-gu.ac.jp
URL : <http://www.seinan-gu.ac.jp/volunteer/>
編集／西南学院大学ボランティアセンター事務室
印刷／株式会社 キャンパスサポート西南
SRプリンティングセンター

一粒の麦から、
次の100年に向かって

